

教育センター だより 第97号



令和3年5月26日発行
佐野市教育センター
佐野市上羽田町1134番地1
電話(20)3108
(20)3048(相談専用)

ICT機器を活用して「さの学」を学ぶ

佐野市教育委員会 教育長 津布久 貞夫

郷土博物館学校利用の始まり

平成元年、佐野市郷土博物館では、市内の小
学校を対象として積極的な学校利用事業を始め
ました。当時、小学6年生が社会科で博物館見
学をする時は、1時間程度の見学のために約半
日の時間を費やしていました。学校から博物館
までの移動は徒歩、大規模校では、最初と最後
のクラスの見学開始時刻に40分もの差が生じ
ていました。これを解消するために、児童の移
動にバスを導入しました。併せて、「火起こし」
と「木の実つぶし」などの体験学習プログラム
を作りました。その結果、市内全小学校が利用
することとなりました。その他、3、4年生向け
のプログラムも開発し、以後、改良を加えなが
ら30年以上もこの事業が続きました。当時は、
工夫した「学び」を実現するためには「距離と時
間」が大きな課題でした。

GIGA スクール構想と「さの学」

GIGA スクール構想で語られている学習の方
法は多様です。例えば、ICT 端末を使うと、児
童生徒は教室に居ながらにして博物館学習を疑
似体験できます。また、唐澤山城跡の発掘成果
は大変貴重なもので、これらをデジタル資料化
すれば、児童生徒は教室で唐澤山城の歴史学習
を手軽にできます。そして、唐澤山城跡の疑似
見学もできます。時間をかけず、さらに、その場
に行かなくても学ぶことのできるメリットは多
大です。かつての学びのための「距離と時間」
は、整備された ICT 機器を活用することで、大
幅に縮小することができます。

ふるさと佐野市を学ぶ「さの学」

佐野市には、天明鋳物や唐澤山城跡をはじめ
牧歌舞伎や獅子舞、神楽などの郷土芸能、昔話、
伝説などの歴史や民俗関係の文化財が多数あり
ます。また、田中正造や儒学者中根東里、作家司
馬遼太郎など有名な人物が残した足跡も知られ
ています。葛生サイをはじめとする葛生地区の
化石群も全国的に知られています。

子供たちが文化財や史跡、化石や自然環境な
どを通して佐野市を学ぶことを通称「さの学」と
いっています。

この「さの学」を通して佐野市を知り、佐野市
に誇りをもち、ふるさと佐野市を自分の言葉で
語れる子供たちが育つことを願っています。そ
して、こうした子供たちは、将来、佐野市を支え
る大きな力を発揮してくれるに違いないと信じ
ています。

佐野市教育委員会では、GIGA スクール構想
が描く多様な学びの一環として、子供たちが「さ
の学」に取り組みやすい環境づくりを開始して
います。もちろん ICT 機器を活用した学習で全
てを学ぶことはできません。実際に見学したり、
体験したりする活動は何物にも代えがたい貴重
な学習活動です。こうした活動とのバランスを
踏まえた立体的な学びのスタイルづくりの一助
として、児童生徒が使用している端末からアク
セスできるデジタル資料の整備を進めていま
す。